

Spring concert 2026

春のハーモニカまつりに向けて

コンサート局 源馬英人

その1

二〇二六春のハーモニカまつりについて、コンサート局から少し早めのお知らせです。

二〇二六春のハーモニカまつりが来年四月二〇日(月)に日暮里サニーホールで開催されます。テーマは「音はどこまで膨らむか——ハーモニカの挑戦」です。二〇二五年度は「今こそハーモニカ!——原点を見つめ、そして未来へ」というテーマを掲げ、ハーモニカ音楽の根幹を構成する情緒や文化について考えてみました。それを踏まえ、今回はハーモニカがどこまでダイナミックに音楽を奏で、表現できるか、その可能性を探ってみたいと思います。言うまでもなく、テーマ中の「膨らむ」という言葉は、乱暴な息づかいで強烈な音を出すという意味でも、また発音の途中で音を激しく膨張させるという意味でもありません。ここで言う音の膨らみとは、演奏者の芸術的創意と技量によって実現する多次的で弾力的な響きの拡張・展開であり、結果的に、そうした一つ一つの音が有機的に結びつくことで生み出される豊かな音楽世界のことでもあります。

ゲスト(敬称略)には、中西基起、楠光恵、ローゼンリッター、ボンボア、という素晴らしい演奏家たちをお迎えする予定です。

二〇二六春のハーモニカまつりに向けて、コンサート局から次回ゲストの皆さんに次のような質問をしてみました。

- ① ハーモニカはどうあるべきか？
 - ② ハーモニカの音はどうあるべきか？
 - ③ ハーモニカの音楽はどうあるべきか？
 - ④ 春のハーモニカまつりに寄せる想いは？
- 質問①②③は内容的に重複する点がありますので、ゲストの皆さんには自由・柔軟に考え、答えてくださるようお願いしました。

今号では、楠光恵さんとローゼンリッター代表の中村修一さんから頂いた回答をご紹介します。

回答 A

楠光恵さん



まず初めに……今回、とても難しいテーマの執筆依頼を受け、普段はそんなに使わない頭をフル回転させて私なりの考えを書かせていただきます。

いろいろな楽器がたくさんある中で、私がハーモニカという楽器を選び吹き続けているのはどうしてなんだろうと考えたとき、ふと、人間の生きていくに欠かせない呼吸と同じだからなのかも知れないと頭に浮かびました。

ハーモニカは吹いても吸っても音が出る楽器で、この世の中に同じように、呼吸で音が出る楽器は笙だけです。

ハーモニカは、他の楽器と比べると手軽に持ち運びができ、生きてさえいれば誰でも簡単に音の出せる楽器。

面白いことに、音を聴くと、人それぞれの性格がかなりストレートに出ているので、ときに見かけと違う音を出す方がいらつしやるに興味をそそられます(笑)。

私がハーモニカを吹く上で最も大事にしているのが調律です。そして、楽器を鳴らしてあげること。どのくらいの息を入れたら楽器が気持ちよく鳴ってくれるのか、常に耳を澄ませています。

思ったとおりの音が出ているときは、最高に気持ちがいいです。もちろん奏法などのテクニクも重要かと思いますが、聴き手が、あの演奏は凄かったというよりは、素敵な演奏でしたと感じていただけのような、私の世界観を共有していただける時間を持てたら嬉しいです。

私にとつてのハーモニカによるステージは、調律師との二人三脚で作らされたものと思っています。「春のハーモニカ祭り」で皆さんにお会い出来ること、そして私の音を聴いていただけるのを楽しみにしています。

楠光恵

回答 B

ローゼンリッター（中村修一）さん



ハーモニカは、最も身近で、そして最も奥深い楽器のひとつです。掌に収まる小さな楽器から、自然や人生の喜怒哀楽が、自分の呼吸そのままに響き出す。この「小ささ」と「大きさ」の同居こそが、ハーモニカの大きな魅力です。

しばしば「歌うように吹け」と言われるように、その音色は人の声に近く、言葉にならない感情をやさしく伝えてくれます。人生一〇〇年時代が一〇〇年時代になったとしても、ハーモニカを通じた表現の探求は尽きることがなく、一生をかけて楽しめるものだと感じています。

では、ハーモニカの音はどうかあるべきか。一つには「語りかけ」に近いものだと考えるでしょう。正確に鳴らすだけでは足りません。わずかな揺れや、ため息のようなニュアンスが、デジタルでは再現しにくい人間的な温かみをつくり出します。演奏技術を磨けば磨くほど、むしろ自然体の響きを保つことが大切になります。メロディーを支える小さな和音が自然に流れ込み、聴く人に心地よさを与える。そのときに初めて「音色の核心」に近づけるのではないのでしょうか。

ハーモニカの音楽は、分断された現代音楽の世界に横串を通す存在であってほしいと思います。ジャンルに縛られず、民謡からクラシック、ジャズ、ポップスに至るまで、どの音楽にも自然に溶け込みます。その柔軟さこそが、時代を越えて楽器が生き続ける力になるはずです。

今回の「春のハーモニカまつり」のテーマは「音はどこまで膨らむか」。

まさにハーモニカの可能性を示す言葉です。掌から立ち上がる音が会場を満たし、聴く人の心の奥にまで広がっていく。その瞬間に立ち会えることを、心から楽しみにしています。音楽は響き合うことで初めて膨らみます。小さなハーモニカが大きなつながりを生み出す場となることを願っています。

中村修一

*

ハーモニカ愛があふれるご回答をいただき、コンサート局として感激しております。来年四月にはぜひ、こうした想いが十分に感じられるようなコンサートを実現したいと思っています。次号では、中西基起さんとボンボアさんに同じ質問にお答えいただきます。どうぞ楽しみにお待ちしております。

春のハーモニカまつり Spring concert



ローゼンリッター



Bom X Boa



中西基起

音はどこまで膨らむかの挑戦

2026年4月20日(月曜日)
春のハーモニカまつり Spring concert
<第77回日本ハーモニカ芸術協会定期演奏会>

日程：2026年4月20日(月)
14:30開場 15:00開演 <17:00終演予定>

会場：日暮里サニーホール
東京都荒川区東日暮里5-50-5 アートホテル日暮里ラングウッド4F

チケット：前売券 2,500円 / 当日券 3,000円 (全席指定)

出演者：2025年度複音ハーモニカコンクール優勝者
中西基起・楠光恵・ローゼンリッター・Bom X Boa

主催：日本ハーモニカ芸術協会
後援：全日本ハーモニカ連盟 / ハーモニカ振興会 / F.I.H.JAPAN
問い合わせ：日本ハーモニカ芸術協会コンサート局 運馬英人 TEL 077-549-3329
●会員の方は、当日午前に関催される全国研修会(無料)にもぜひご参加ください。

フライヤー

Spring concert 2026

春のハーモニカまつりに向けて

コンサート局 源馬英人

その2

会員の皆さま、こんにちは。厳しかった冬の寒さも過ぎ去り、うららかな季節となりました。お元気にお過ごしのことと存じます。秋冬号に引き続き、間近に迫った「二〇二六春のハーモニカまつり」のゲスト出演者の方々に、ハーモニカへの想いを語っていただきます。

今回ご登場くださるゲストは、中西基起さんとボンボアの大内友哉さん・井上初美さんです。前号と同じく、以下の質問にお答えいただきました。

- ① ハーモニカはどうあるべきか？
 - ② ハーモニカの音はどうあるべきか？
 - ③ ハーモニカの音楽はどうあるべきか？
 - ④ 春のハーモニカまつりに寄せる想いは？
- それでは、どうぞお答えいただきましょう。

音はどこまで膨らむかの挑戦

2026年4月20日(月曜日)

春のハーモニカまつり / Spring concert

<第77回日本ハーモニカ芸術協会定期演奏会>

日 程：2026年4月20日(月)
14:30開場 15:00開演 <17:00終演予定>

会 場：日暮野サニーホール
東京都荒川区東日暮野5-50-5 アートホテル日暮野ラングウウド4F

チケット：前売券 2,500円 / 当日券 3,000円 (全席指定)

出演者：2025年度 審査ハーモニカコンクール優勝者
中西基起・ 橋光恵・ ローゼンリッター・ Bom X Boa

主催：日本ハーモニカ芸術協会
後援：全日本ハーモニカ連盟/ハーモニカ協会/F.I.H.JAPAN
問い合わせ：日本ハーモニカ芸術協会コンサート局 源馬英人 TEL 077-549-3329
●会員の方は、当日生前に開催される全国総代会(無料)にもぜひご参加ください。

回答C

中西基起さん



私が音楽を始めたのは幼稚園のヤマハ音楽教室でした。しかし自らの意思というよりは、おだてられて続けていた感があり、小学四年には辞めてしまいました。真に興味を持ったのは中学生になってから、スペインのピアニスト、アリシア・デ・ラローチャのレコードを聴いた瞬間でした。ポリーニやブーニンといった名だたるピアニストの名演よりも、直球で「こんな風に弾いてみたい！練習したい！」と思わされたのが、つきりと覚えています。

さて、ハーモニカの未来を考えると、楽器、音色の魅力は勿論なのですが、何と言ってもその楽器を魅力的に演奏するプレーヤー達の存在が必須だと思うのです。日本ハーモニカ芸術協会の理念「日本の奏法の研究・継承・発展」はまさに此処にあると思います。想像してみてください、会員全員が誰かしらの心に留まる音が出せたら、何処までハーモニカが広まるか！協会がハーモニカ愛好者皆の研鑽の場になれば良いと思いますし、私たちは何処までも勉強を止めてはいけないと思います。

試験の合否、コンクールでの勝敗、手法の相違、目的の相違、様々な衝突・葛藤があるかと思いますが、音楽に一つの答えはありませんから、それでこそより多くの人の耳に留まるものになって行くのだと思います。皆で育ち・育てましょう。さて、音はどこまで膨らむか、春のハーモニカまつりでは「複音ハーモニカにしかできない響き」を軸にした演目を考えております。まだまだ未熟ではございますが誠心誠意、心を込めて演奏させていただきたいと思っています。

春のハーモニカまつり Spring concert

ハーモニカデュオ Bom x Boa 大内友哉さん・井上初美さん

回答 D

ハーモニカは、誰もが手に取ることができる、もつとも身近な楽器のひとつです。ポケットに収まる小さなボディから生まれる音は、時に力強く、時に温かく、聴く人の心にまっすぐ届きます。その手軽さと奥深さを兼ね備えた魅力を、子どもから大人まで、あらゆる世代の人たちと楽しんでいけたらと思っています。特に若い世代にもハーモニカの面白さを伝え、演奏を始めるきっかけを作りたい。そして、世代を越えて共に音を奏でたり、語り合うことで、新しいコミュニケーションの輪が広がっていくことを願っています。

ハーモニカの音は、まるで歌声のように、その人自身の個性を映し出します。同じ楽器、同じ曲であっても、奏者によってまったく違う表情を見せてくれます。上手さを競うのではなく、自分らしい音を見つけて奏でていく。仲間と音を合わせる。ハーモニカを続ける楽しみは無限に広がっていくのではないのでしょうか。また、ハーモニカの音色は、特定のジャンルに縛られることなく、クラシックでもポップスでもジャズでも、どんな音楽にも溶け込める、親しみやすく聞こえる懐の深さが魅力のひとつ。「ハーモニカ音楽」という枠を越えて、音楽そのものとして楽しむことで、新しい表現が生まれ、ファンや愛好者の輪もさらに広がっていくことを願っています。

春のハーモニカまつりでは、そんな思いを胸に、私たちの「ハーモニカが大好き」という情熱を音に込めて届けます。ハーモニカという楽器で音楽としての魅力を、音色を、全身で伝えたい。情熱と気迫をステージから客席へ、そして会場全体へとお届けできたら嬉しいです。全国から集まるハーモニカ愛好者の皆さんとともに、気持ちのひとつに重なり合い、会場全体が幸せな気持ちで満たされる、そんなステージを目指して、演奏させていただきたいと思っています。



今回も、思わず「なるほど!」と唸らされるご名答をいただき、コンサート局として大きな喜びを感じます。四月二十日の「二〇二六春のハーモニカまつり」が素晴らしい祭典になることを確信しております。

読者の皆さまも、どうぞご家族やご友人をたくさんお誘いの上、楽しみにご来場ください。

日暮里サニーホールでお会いしましょう。